



青葉山さんかく隊

NEWS LETTER vol.4

第3回ワークショップ「屋外の広場でどんなことをしたい？」



日時・会場

日時：2025年7月21日(月) 14:00～16:30

会場：青葉の風テラス 2階

プログラム

1. はじめに
2. 前回のふりかえり
3. みんなで自己紹介
4. ランドスケープデザインについて
5. 話し合い「屋内外の空間の使い方」
6. 発表
7. ふりかえりトーク
8. おわりに

仙台市では、青葉山エリアに音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設を新しく整備する計画を進めています。

本施設の設計プロジェクトの一環として、施設の使い方、過ごし方、やってみたいアイデアなどを考える全4回の市民ワークショップが「青葉山さんかく隊」です。

第3回目は40名が参加。今回は、施設の基本設計を担当する藤本壮介氏と、ランドスケープデザインを担当するE-DESIGNの忽那裕樹氏を招きました。住民参画で進めたランドスケープデザインの事例や、施設のゾーニング図を踏まえ、屋内外での活動について意見交換をしました。

ランドスケープデザインとは

ランドスケープは「風景」と訳されます。**ランドスケープデザインでは、建物の周囲にある植栽や広場なども含めた、風景全体をデザインします。**また、空間を利用する人々の活動の支援も行い、**人の営みや活動の風景もデザインの一部**と捉えています。



空間を楽しく使いこなすことで、暮らしを豊かに

まちに住む人やその空間を訪れる人が、思い思いのライフスタイルを楽しみながら活動し、それがつながっていく。そのような**「空間を楽しく使いこなしている風景」の積み重ねから、まちの魅力が育まれていくのだ**と思います。

また、「自分の暮らしもきっと豊かになる」「他の誰かの活動とつながっていける」といった期待感を感じることもできるでしょう。

皆さんの身近にある広場、公園などのオープンスペースは、そのような風景を支える大切な舞台です。

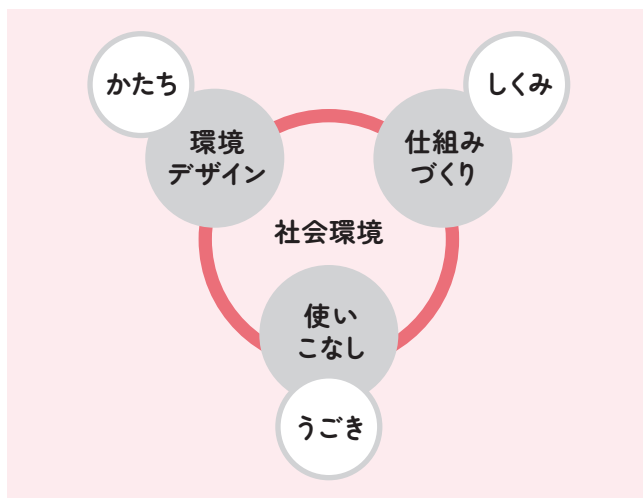
それぞれの人が、それぞれの場所で自分の役割を見つけ、互いに感謝しあえるような空間をつくっていかれたと考えています。

デザインの3つの視点

「かたち」「しくみ」「うごき」という3つの視点でランドスケープデザインを考えていきます。

「かたち」は、建物や環境のデザインそのもの。「しくみ」は、場や活動を支える仕組みのこと。行政との連携や、商売で得た利益を運営に充てるといった、持続可能な仕組みづくりです。そして**「うごき」は、その場を実際に使いこなす人々の活動や関わり方**のこと。活動する人、それを応援する人、お互いに応援しあえる関係性など、人の動きをデザインします。

この3つを「ひとつのデザイン」と捉え、皆さんのやりたいことを実現できる場を、丁寧に設計していきたいと考えています。



事例 シーパスパーク (SHEEPATH PARK)

大阪府泉大津市

市民会館跡地に、都市公園「シーパスパーク」と民間活用用地「シーパスパーク広場」を一体として整備。公園は市民活動や子どもの遊び場として活用され、民間活用用地には市民の健康づくりを推進する「健康ラボ」やレストランが設置されています。

基本設計の段階から、市民ワークショップを通して公園の使いこなし方ややりたい活動について意見を集め、それらを実現するためのかたちやしくみを検討しました。その中で、市民活動団体「シーパスパーク・クラブ」が発足。建設予定地で市民主導で開催したフェスには、約5,000人が参加しました。



画像出典：E-DESIGN WEB サイト (<https://edesign-inc.com/project/709/>)

市民ワークショップで出た意見を全て実現できるように、公園や民間活用用地、市内の他のオープンスペースなど、1つ1つの場所で行えるか検討していきました。

市民ワークショップでは、話し合いだけでなく、やってみたい活動を実際に現地で実験・振り返りも行い、公園を使いこなす市民組織づくりの第一歩となりました。

話し合い「屋内外の空間の使い方」

今回は、春・夏・秋・冬の季節ごとの7テーブルに分かれ、それぞれの季節や時間帯を想定しながら、話し合いを進めました。また、施設とその周辺環境を含むゾーニング図も踏まえ、活動する場所も考慮し、より具体的に活動のアイデアを考えました。



藤本さんや忽那さんからもアドバイスをいただきました

▼ 話し合いで出た意見(抜粋)

1人でのんびり過ごす1日		
朝	昼	夜
- 朝の散歩 - ラジオ体操 - 朝ごはんを丁寧に手作り	- 出張版ミニ図書館で好きな本を探す - 青葉山ランチ(自然を感じてゆっくり昼食) - 昼寝	- 静かにお月見 - 灯籠流し - イルミネーション - サイレントブッククラブ - 足湯

親子で過ごす1日		
朝	昼	夜
- ラジオ体操 - パンを一緒にこねて焼いて朝ごはん作り	- こどもが音楽に親しむワークショップ(親子で演奏や歌) - 読み聞かせ - 流しそうめん - 楽器クラフト	- 七夕踊り - 七夕イベント - キッチンカーめぐり(親子でいろんな食べ物をシェア)

中高生が友達と楽しむ1日		
朝	昼	夜
- ランニング - 川沿いをサイクリング - 日の出を見る(早起きに挑戦)	- 軒下や空きスペースでダンスの練習 - 路上ライブOKなスペースで楽器演奏や歌 - サッカー	- 寝ながら夜空を見る(芝生や広場) - 屋外上映会 - 屋外のゴールでストリートバスケット

作って食べて、食を満喫する1日		
朝	昼	夜
- パンづくり体験 - 持ち寄りランチ - 餅つき大会や甘酒お振舞い(冬限定) - 畑で野菜収穫	- 石でかまどづくり - 芋煮会 - 国際食を楽しむ - サバイバルBBQ - スイーツキッチンカー	- ご当地グルメを楽しむ屋台 - お月見会で月見団子や季節のおやつ

芸術文化を楽しむ1日		
朝	昼	夜
- サイレントブッククラブ(朝読書) - 仙台フィルの演奏でラジオ体操	- 野外美術展示 - 芸術祭 - JAZZ フェス - 出張版ミニ図書館や博物館 - 川でトランペット	- プロジェクションマッピング - コンサート - 火を見ながら音楽を聴く

アクティブに自然を満喫する1日		
朝	昼	夜
- パークヨガ - 朝の散歩+バードウォッチング - 川沿いをサイクリング	- クライミングウォールから川を見る - ピクニックランチ - 気球 - 木の実や落ち葉で楽器づくり	- 蛍のイルミネーション - 虫の音を愉しむ - キャンプファイヤー

防災を学ぶ1日		
朝	昼	夜
・非常食で調理体験 ・新聞紙ワークショップ（災害スリッパや防寒着など）	・防災かまどでピザを焼く ・ロープワークワークショップ（Tシャツやタオルで代用ロープ作成）	・暗闇を楽しむ体験 ・防災キャンプ（避難所設営や防災トイレの体験） ・薪割り

3.11を考える1日		
朝	昼	夜
・日の出をみる ・雪が降る音を楽しむ ・朝の凍てついた散歩道を楽しむ	・非常食交換会 ・沿岸までサイクリング ・毎月11日の14:46に鐘が鳴る ・沿岸の植物を植える	・キャンプファイヤーで語らう ・寝ながら夜空を見る ・電気を消す

夏を涼しく過ごす1日		
朝	昼	夜
・鳥の声や水の音で癒される	・施設の中で涼む ・流しそうめん ・足湯の冷水バージョン ・川遊び	・レモネードスタンド（夕涼み気分で） ・蛍のイルミネーション ・屋上から花火

冬ならではの満喫する1日		
朝	昼	夜
・お雑煮or甘酒お振舞い ・季節の野菜スープや焼き芋で朝ごはん	・ミニ雪まつり（雪だるまや雪像づくり） ・ロケットストーブづくり ・編み物	・ねぶくろシネマ ・薪割り ・スウェーデントーチを囲む

その他		
▼レンタル備品 ・イスやテーブル ・ヨギボー ・川遊びグッズ ・芋煮セット	▼屋外の設備 ・電気自動車の充電設備 ・芋煮やBBQで使える水場 ・水遊びできる噴水や池 ・水の濾過装置 ・防災かまど ・パイオマストイレ	▼道の整備 ・夜でも明かりがついている ・緑の回廊で周辺施設とつながる ・青春ロード（学生の通り道） ・サイクリングロード ・桜の小径までの風景を綺麗に ・川へアクセスできる道 ・川に橋を架ける

ふりかえりトーク

話し合いや発表内容を踏まえ、藤本さんと忽那さんのお二人からコメントをいただきました。

皆さんがいきいきと話し合いや発表をしているように感動しました。この勢いが施設のオープンまで、そしてオープン後も続いてほしいです。

施設だけでなく、施設の周辺環境も含めてアイデアを考えてくれたこともとても嬉しかったです。施設で生まれた活動が周辺に広がっていくことで、この施設ができた意味も広がると思います。



藤本壮介 氏



忽那裕樹 氏

意見ひとつひとつが独立したものではなく、ストーリー性がある点がおもしろいと感じました。

震災メモリアル拠点や音楽ホールを中心に置きつつ、場所ごとに多様な活動ができるよう、施設や周辺環境を運営するつもりで考えてもらいたいです。そうすると、日常の活動が豊かになり、非常時にも強いコミュニティができると思います。